

寄付をいただいた皆さん

・山本 敏晴  
・中山 修  
・三井不動産リアリティ株

新たに入会された皆さん  
賛助会員

・宮本 真由美

(順不同、敬称略 期間：2015年9月16日～12月5日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 210,417円  
2015年4月1日～11月30日



ご支援ありがとうございました。

(認定) 宝塚 NPO センター会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

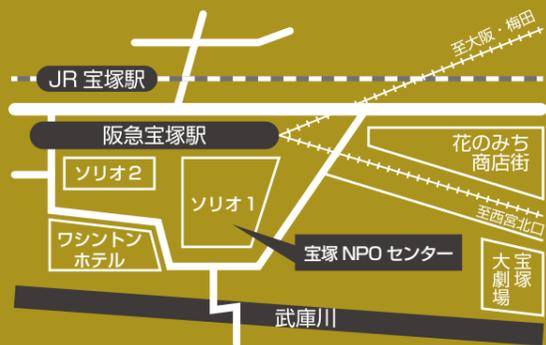
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクテイヒエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845  
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1  
ソリオ1-3F  
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799  
E-mail: zukanpo@hnpo.net  
URL: http://hnpo.net/  
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センターニュース

# TAKARAZUKA NPO CENTER NEWS

市民の手で市民活動を支える

85 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2015.12

野菜や花を育てて仲間づくり、  
生きがいづくり、  
それが地域の健康寿命を延ばす

宝塚 NPO センターは  
メールマガジンを月 2 回配信しています



zukanpo@hnpo.net

上記アドレスに「配信希望」とご入力ください

みなさまの寄付で支えられています



http://hnpo.net/support/

認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

特定非営利活動法人 ひょうご宝塚園芸福祉協会 理事長 金岡 重子

## ● 協働の場づくり

＜宝塚市市民活動促進支援事業＞

### 「まちを知ると、自然とまちに関わりたくなる」

市民がまちづくりの当事者として「どのようにこのまちを作りたいのか」を考え、行動することを目的とする「まちを知る・まちに関わる講座」を11月に4回連続で行いました。初回の対話型自治体運営シミュレーションゲーム「SIM 熊本 2030」を皮切りに2回目「我がまちの魅力と課題を考えよう」では参加者と宝塚との関わりについて考えました。3回目「実際に活動している人に会いに行く」フィールドワークに続き、4回目の「何が出来るか考えてみよう」で締めくくりました。

参加者からは各回での学びを通じて「これから市民活動する際に役に立つ」、「お酒の席でなく、愚痴でもなく、まちのことについてこんなに話せたのは初めてかも」とのご感想を頂きました。また楽しいばかりではなく、最終回では「一歩踏み出せない自分」と向き合われる参加者もいらっしゃいました。

一連の講座運営を通じ、まちと関わるひとつのきっかけは住む人と出会い、考え、話すことから自然と始まるのだと改めて感じました。ただ、やってみたくとも様々な事情で許されない場合があることもわかりました。まちとの関わり方は人それぞれ。お互いの事情が許す範囲での関わりをまずは大切にしていくこと、それがまちづくりを無理なく永く継続させるコツなのかもしれません。



まちの未来と向き合う  
「SIM 熊本 2030」



フィールドワークで豊中にある  
校区デイハウス村井「遊友」へ訪問



フィールドワークで  
まちを身近に感じる

宝塚市には、6軒のきすなの家があります

## ● 市民ネットワークづくり

＜宝塚市きすなの家事業＞



様々な出会いとつながる場を目指す  
「KaRuTa」開所式

10月21日、宝塚市きすなの家事業補助金を受け、市内で6つ目のきすなの家として「コミュニティカフェ KaRuTa」を阪急宝塚駅前の花のみち入口にオープンしました。ここでは誰でもが参加できるサードプレイス。生活上欠かせない「二つの居場所」家庭や職場あるいは学校ではなく、居心地の良い自分のための第3の居場所がサードプレイスです。

KaRuTa の名前には、ここで出会った人が「かたる」場にしたいとの思いが詰まっています。言葉をバラバラにして組み合わせた名前の様に、KaRuTa では、様々な参加の形を組み合わせ楽しむことができます。お茶を飲むだけでなく、描いた絵を飾る、ミニコンサートをひらく、ボランティアとして厨房に立つなど自分らしい選択ができるところが特徴です。そのため、ここでは、座っているだけの「居場所」ではなく、自分らしく社会に関わり活躍できるステージとしての「出場所」の役割も果たしています。「一人で食べるカレーと、ここでおしゃべりしながら一緒に食べるカレーの味は違うわね」の言葉をいただきました。スタートしてから1カ月を経て、1杯のコーヒーが人と人を繋ぎ、会話が最高の調味料になっているようです。来年は「学ぶ」もテーマに加え、お勤め帰りの人も参加できるプログラムを企画中です。多様な人の参加で作り上げる KaRuTa に今後ともご期待ください。



〒665-0845  
宝塚市栄町1-1-19 西村ビル 1F  
開所時間：月曜日 13～16時 火～土曜日 11～16時

## 「園芸福祉で幸せを生み出していけること、それが私たちにとっての幸せ」

地道な下準備や仕組みづくりに余念がない事務局長との両輪で様々な事業を生み出してきました。のどかな農園芸風景の中で集う人々との出会いがあり喜びがあります。単なる貸農園では生まれにくい温かな関わりが、長尾地区のみならず各地に広がることは、子育てや高齢者が元気になるまちづくりに活用できるのではないのでしょうか。

特定非営利活動法人 ひょうご宝塚園芸福祉協会 理事長 金岡 重子

取材に行ってきました！！

### 「長尾地区で続く園芸を通じた幸せのまちづくり」

かつては日本の植木3大産地に名を連ねた宝塚市長尾地区。「植木のまちから新しい福祉の形を発進、発信しよう」と園芸作業を通じて地域での仲間づくり、生きがいや健康増進を培う NPO 法人ひょうご宝塚園芸福祉協会。山本駅からほど近い実践活動場所3か所を訪問して、金岡重子理事長からお話を伺いました。



誰もが参加できる園芸福祉活動の場  
「ゆうゆうガーデン」



1年を通じて子ども達に野菜作りを  
教える「楽農すくすく塾」



3世代で収穫体験ができる農場  
「わくわくファーム宝塚」

### 「平成16年の初級園芸福祉士養成講座が出发点」

開催事務局を担当しながら園芸福祉を学び、資格を取得、園芸福祉を地域で実践したいと平成18年雑草に覆われた植木畑の遊休地約850㎡(約250坪)で「ゆうゆうガーデン」を開設したそうです。以来毎週水曜日に30人の登録メンバーが団体活動として野菜作りに励んでおられます。農園芸福祉活動はまず実践！体験！実感へ、そして生きがいづくりへと繋がっていき、当時、主婦の間で・・・と言われる場面もあって社会的信用度と社会貢献度を高めるために平成19年特定非営利活動法人を取得されたそうです。

### 「植木を育てるのも、人を育てるのも同じ」

長年園芸業に関わってこられた金岡理事長は、自らの活動を、介護福祉が中心の世の中で「年をとっても元気な人がより元気に」「子ども達には小さい時からものづくりの経験と体力づくり」をと介護に頼らない世の中を作る事が大切だと言われます。素性の良い植木は、小さい時から日光を十分に浴びのびのび育ちますが、形を揃える為には時々剪定をします。時期を間違えて何時もチョコチョコ切っていれば、花も実もなりません。子育ても同じで、育てる人によって素性も形も変わります。これから宝塚市で始まる「エイジフレンドリーシティ」にも繋がる活動がここにあります。幸せを育むまちづくりは成長を続けたいという人々の思いに応え、それをみんなで支えることから始まるのかもしれない。

### 花と緑のサポート隊事業のご案内

NPO法人ひょうご宝塚園芸福祉協会では、高齢者宅や留守家庭等を対象に庭仕事のお手伝いや簡単な剪定作業を行っています。

- 見積もりは無料 -

作業費用は一人1時間1,000円+交通費(その他ゴミ捨て代等)

お問い合わせ  
[mail]: fumiyouate@ybb.ne.jp  
[TEL]: 0797-86-0619



花壇づくりのお手伝い